



青柳園だより

令和3年
11月号
文京区立青柳幼稚園

秋の自然を身近に感じて

園長 多比良 由恵

11月に入り、風の冷たさや日の短さに、秋から冬への季節の移り変わりを感じます。10月中旬には、園庭と第二校庭の改修工事が終わりました。子どもたちは、久しぶりに砂場で遊んだり、思う存分、かけっこや鬼ごっこをして走り回ったりすることを楽しんでいます。

感染症の状況が少し落ち着いている中、幼稚園では、予防対策を図りながら、できることが少しずつ増えてきています。10月初旬の〈げんきげんきデー〉、中旬には〈4歳児もも組 図書館訪問〉〈児童館交流〉〈愛育会主催“さしあげます”〉、そして10月末には2年ぶりの〈親子遠足〉を実施することができました。

親子遠足では、小石川植物園に集い、園内を親子で探検しました。「いろいろな大きさや形のドングリやモグラの穴を見付けよう」「友達やお家の人と大きな木を囲んでみよう」など、秋の自然を見付けたり、感じたりしながら過ごしました。

久しぶりの植物園に、「木が大きくなっているな」「ここの木は枯れてしまったんだな」と気付いたり、「こんな所にベンチが設置されている」「温室が公開されているんだ」など、新たな気付きや新鮮な出会いがたくさんありました。文京区内にあり、季節によっても様々な自然を身近に感じることでできる場所ですね。



〈小石川植物園にて〉

幼稚園の中でも、栽培物との関わりを通して自然との触れ合いを大切にしています。4歳児もも組では、土づくりをして、チューリップの球根やソラマメの種などを植えました。毎日、水やりをしながら生長を楽しみにしています。

5歳児ゆり組は、9月に収穫して乾燥させていたポップコーンを味わいました。固い実を一粒ずつ外しながら、「ポップコーンを食べるのは大変なんだね」と友達と伝え合っていました。そして、透明な鍋で炒める様子をみんなで見ました。初めは静かだった鍋からは「ポン」「ポン」と一粒ずつ、次第に「ポンポンポン……」とたくさんのはじける音がして、いい香りに包まれていきました。子どもたちは、目を輝かせ、身体を弾ませながら、幸せな音や香りを満喫し、「今まで食べた中で一番おいしい！」と満面の笑みでした。家庭にも持ち帰って、楽しさや美味しさを味わう機会としています。



〈ポップコーンの収穫〉



〈乾燥させています〉



〈鍋の中にはポップコーンが一杯〉